

## 今号の内容

1. 松川高校の全校ディスカッション
2. 理科教育研究会「久々に明るく見えた NEOWISE 彗星」
3. オンライン教文運営委員会（9/22）報告

## 教文通信アーカイブス

### 教文通信 No.1（電子版）

新型コロナウイルス感染症  
禍でのアンケート結果

### 教文通信 No.2（電子版）

ジェンダー平等の教育を考え  
る総研資料

### 教文通信 No.3（電子版）

職場教研報告

### 教文通信 No.4（電子版）

上西充子さん（法政大学  
教授）講演会報告

### 教文通信 No.277（紙版）

「コロナ後の教育はどうあるべきか」

勝野正章さん

（東京大学教授）

\* 教文通信は、教文 HP の  
会員専用ページでご覧にな  
れます。紙で発行したもの  
もご覧になれます。

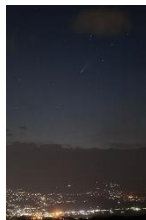
## 1. 松川高校の全校ディスカッション



8月5日に「コロナ禍における文化祭のカタチ」というテーマで「全校ディスカッション」を行いました。「全校ディスカッション」とは1年に2回 LHR の時間を使って行う生徒会主催の行事です。全校生徒をランダムに分けて6名程度の班を50つくって行います。全校ディスカッションの目的は全校生徒の交流、議論の練習です。……（続きはHPで）

## 2. 理科教育研究会（研究会長 松井 聡）

### 「久々に明るく見えた!NEOWISE 彗星」



本年3月にアメリカの運用する赤外線天文観測衛星 NEOWISE の画像から発見されたこの彗星は、その後の観測から彗星本体のサイズとしては標準的であるものの水星の内側まで入り込む軌道で太陽に近づくこととその頃の地球との位置関係からみて、7月中旬から8月にかけてかなり明るく見えるのではないかと期待されていました。……（続きはHPで）

## 3. オンライン教文運営委員会 報告

コロナ禍で実際に集まることが難しい状況ではあるが、少人数で研究会をおこなっている場合もある。オンラインで

可能な場合は、なるべく行っていく方向で考えている。……

（議長より）

交流したいことは多々ありますが、ここでの話し合いをそれぞれの所で生かし、オンライン等も工夫して活用して頂きたい。また、情報公開して多くの人が参加できる状況をつくっていくことも大切であり、望ましい教育の実現していくための研究活動を大事にしていきたい。……（詳細はHPで）

## 松川高校の全校ディスカッション

8月5日に「コロナ禍における文化祭のカタチ」というテーマで「全校ディスカッション」を行いました。「全校ディスカッション」とは1年に2回 LHR の時間を使って行う生徒会主催の行事です。全校生徒をランダムに分けて6名程度の班を50つくって行います。全校ディスカッションの目的は全校生徒の交流、議論の練習です。去年は「生徒によるスマホルール作り」の材料として「スマホ」をテーマに議論をしたり、今回のように「コロナ禍における文化祭」はどのようなルールが必要なのかを考える等、生徒の学校生活と結びついたテーマを話し合うことが増えてきました。それによって、単なる交流の場というよりは自らの学校生活について考えるきっかけとなりつつあります。

当日は各教室に生徒会役員数名がファシリテーターとしてつきます。役員は当日までに全体の進行方法やアイスブレイクの内容を考えます。

### 以下ファシリテーターを務めた役員の感想です。

- ・最後に時間が余ってしまったのが反省点です。
- ・みんなが協力してくれたおかげで楽しくできた。
- ・各班の中心になって司会をしてくれた3年生の力を感じた。
- ・アイスブレイクとして、「世の中で一番〇〇なもの」を各班で話してもらったら雰囲気が良くなった。
- ・準備不足を痛感しました。



### 以下は各教室を見ていただいた職員の感想です。

- ・各会場でディスカッションが粛々と行われていてよかった。
- ・テーマが話しづらそうなテーマだった。
- ・こうした機会があることは貴重なことだと思う。
- ・意見は活発にでていたが、踏み込んだ議論には至らなかった。
- ・3年生たちが気を遣っていた。
- ・ファシリテーターの力量や、班の構成メンバーによって大きな差ができてしまう。静かな班をどうするかが課題。



今後は反省点を生かしながら有意義な行事にしていけたらと思います。

# 久々に明るく見えた！ネオワイズ（NEOWISE）彗星（C/2020F3）

本年3月にアメリカの運用する赤外線天文観測衛星 NEOWISE の画像から発見されたこの彗星は、その後の観測から彗星本体のサイズとしては標準的であるものの、水星の内側まで入り込む軌道で太陽に近づくこととその頃の地球との位置関係からみて、7月中旬から8月にかけてかなり明るく見えるのではないかと期待されていました。

日本ではこの見頃の時期が梅雨のタイミングと重なってしまったことから、なかなか晴れ間に恵まれずやきもきしていたのですが、教文理科 ML 上にはそんな中でもこの彗星の姿をとらえた様子が、各地から画像と共に報告されました。コメントにあるように、空の暗いところでは「肉眼でも何とか見えた」「尾がうっすらたなびいて見えた」ようです。

（文責：理科研究会 松井 聡）

## 1. 夕方の空で見え始めた NEOWISE 彗星（7 / 18） 森嶋先生（上田千曲高）より



千曲市にて撮影（55mm レンズ、固定撮影）

撮影者より：肉眼では確認できなかったが、写真には尾も写りました。

## 2. ようやく晴れました&肉眼でも何とか見えました（7 / 19） 木下先生（飯田 OIDE 長姫高）より





豊丘村にて撮影 (上)400mm レンズ、固定撮影、 (下)40mm レンズ、固定撮影  
撮影者より：肉眼で何とか尾も見えたが、双眼鏡でちょうど良い感じ。

3. 晴れ間を求めて移動してみました (7 / 19) 森嶋先生より



撮影者より：晴れ間を求めて上越まで北上。家族連れなども観察に来ていた。かすかにイオンの尾も写った感じ。

4. 北斗七星と NEOWISE 彗星 (7 / 19) 松井 (上田染谷丘高) より



上越市にて撮影（16mm 魚眼レンズ、固定撮影）  
撮影者より：肉眼でも尾が伸びているのがわかった。

5. 画像8枚を重ねて強調処理してみました（7/19） 松井より



上越市にて撮影（135mm レンズ、自動追尾）  
撮影者より：太く輝くちりの尾は肉眼でもわかった。青白くまっすぐ伸びたイオンの尾は、強調処理してみると

結構長かった。

6. 少し暗くなってきました (7/31) 森嶋先生より



撮影者より：月明り(月齢 10.7)や雲で彗星の尾の写りがだいぶ小さくなっています。(彗星の左下の) 付近の星々は、かみのけ座の散開星団 Mel111(メロッテ 111 番)です。



# 9/22(火)教文運営委員会 報告

## 1.経過報告と今後の予定

コロナ禍で実際に集まることが難しい状況ではあるが、少人数で研究会をおこなっている場合もある。オンラインで可能な場合は、なるべく行っていく方向で考えている。

- ・10月17日第7回研究集会は現地に集合する
- ・11月7日(土)県教研 講師内田樹氏 (講演1時間、パネルディスカッションを予定)

## 2. 議題

### (1)教文会議 提言について

学びについて、コロナ禍でどのように対応していくか、また今後 10 年間以降も見据えた教文としての立場をまとめていく →交流後にご意見を頂く

### (2)通信について

- ・記録がメインであったが、提言や教育実践を中心にまとめていく
- ・今年度は、議案書を Web 版にしたが、検証はできていないが、経費は削減できた。会費納入額が減少傾向にある中で、どこを節約するのか工夫することが大事だ。また、Web 版にすると、時間やページ数の制限がなく、教科を超えて広い層にも見てもらえることがも可能になった。実際に、見てもらえるかどうかは課題であるが、一長一短を知り、工夫してうまく活用することが大事である

・家庭科(藤澤 T) :紙で発行予定でいる。Web 版もあるが、自分から情報を取りに行くことも難しい状況もあり、紙ベースで届くことが大事だと考えている。Web を取り入れるのであれば、情報交換ができるような工夫やセキュリティの問題など、教文全体でシステムが構築できると良い。

・学校保健(茨木 T):アナログで届くのも大事だが、グーグルサイトで実践事例を上げて活用している。12月の全県研究会で提案し、徐々に Web 版も検討していきたい。今年度は、従来通りの方法で考えている。

・理科(松井 T):独自のメーリングリストなどがあり、以前より使用していた。紙ベースと Web の両方を使用している。40名程度の参加があるが、今の現状を考えると、準備しておいて良かった。

### (3)教文会議50年史について

正副会長中心に編纂を進めているが、今年度は中止し、来年度へ延期する。  
今後の見通しとして、コロナ禍での学校教育の内容についても取り入れていく。

・鈴木 T:今年度より研究会長になったが、昨年度までの方が定年退職を迎えられ再任用の見通しがたらず、今後どうなるか分からない状況があるが、編纂委員会はどのような現状か。

内堀 T:2020 年度は実質的な活動が行われていない。委員長は宮本さん(松本大学)であるが、19 年度は活動があったが、今年度の 6 月以降は延期になっている。ここで、確認できれば、1 年先延ばしにする。

鈴木 T:新しい締切になると、原稿依頼がしやすい。

内堀 T:具体的な日程を提示できなく、大変申し訳ないが、日程の調整はこちらに任せて頂きたい。

寺尾 T:コロナ禍で編集委員会が実施できなかったが、50 年先 100 年先の内容も取り入れていきたいと考えている。  
今後の日程は編集委員会で検討し、連絡していく。

### (4)研究会・支部活動交流

#### 《研究会》

1. 社会科研究会(鈴木 T) オンラインで検討中
2. 外国語教育研究会 (丸山 T)

8月信大で入試問題検討会があった。全国英語教育学会が来年度に延期された。大学で実施されている様子を参考に、Zoom や Web を使った研究会を検討していきたい。

### 3. 理科学研究会(松井 T)

今年度は役員で集まって話し合うことはしていない。今後について、検討していきたい。

黒岩 T: 地学の研究会長だが、コロナで集まることができず、いろいろと進んでいない。オンラインでの交流のヒントがあれば助かる。

### 4. 図書館教育研究会(平沢 T)

役員の入替えがあった。教諭と司書が合同でおこなっているが、なかなか計画が立てられないでいる。独自教研もあるが、今後に向けて検討している。

### 5. 美術教育研究会(大森 T)

どのように進めていくか検討中。オンラインで行うのか、集まるのか。また、オンライン指導で何ができるか検討していきたい。カメラの使い方などについて検討したい。

### 6. 地域と環境教育研究会(石川 T)

コロナ禍で集まれない。連絡を取り合って計画していきたい。

### 7. 学校保健(茨木 T)

6割程度の稼働率で実施できたらと考えている。より豊かな学び合いができるように工夫していきたい。

### 8. 生活指導研究会(児平 T)

活動はないが、特別支援教育との合同を考えている。

### 9. 家庭科教育研究会(藤澤 T)

基礎調査、役員会はオンラインで実施し、今後の計画を立てた。調理実習ができない状況などがあるが、県教委との懇談会をお願いすることがある。オンライン指導で研修を深めていきたい。

### 10. 定通教育研究会(柳澤 T)

高齢者が多いので、アナログな状態です。字が小さいなどの苦情がある。議論がなかなか深まらない。

### 11. 技術・職業教育研究会

年1回の全県研究会は、例年10名前後なので広い部屋があれば問題ない。専門部の再編計画で、いろいろな動きがあるので、情報交換していきたい。

### 12. 音楽教育研究会(清住 T)

高音研との差異が難しい。

### 《支部活動》

1. 高水・須坂支部 支部教研実施。須坂東高校に集まって行う。

2. 長水支部 オンラインで講演会のみ実施

3. 更埴支部 オンライン等で実施。分科会のみで短時間。

4. 上小支部(松井 T) オンラインで実施予定。研究会長の選定がない研究会もある。レポートを Web 上で公開予定。

5. 佐久支部(松澤 T) 県教組と一緒にっており、今年度は中止となった。

6. 安曇支部(小池 T) 支部の運営委員会中止が決定。会員が減少している。地域的な事情から集まるのが難しい状況がある。他地域との合同の方がよいか。

7. 諏訪支部(有賀 T) 実施の予定でいる。別日程で計画している教科もある。

8. 上伊那支部(中村 T) 教文委員会5回実施。支部教研は研究会を縮小して実施する。講演会はオンラインで行い、各学校でも聴けるようにした。全県の方にも聴いてもらえるようにする。

9. 下伊那支部(中塚 T) 中止とした。他の支部の工夫を学びたい。

10. 松筑支部(倉下 T) オンラインで講演会のみ実施するが、各校の教文委員の先生の負担が大きい。支部のHPを作成した。オンラインでの旅費や日当はどのようにすべきか。

→内堀 T: 通信費については、本部では Wi-Fi を使用しない場合、1時間あたり1,100 円で2時間を上限として2,200 円(3~4時間かかったとしても)までとしている。本部は日当は付けないが、支部で日当を付ける場合は、独自の判断で検討してほしい。現状では会費残金も多いが、数年後の状況を見ながら各支部で判断する。

(まとめ)今年度はコロナ禍で厳しい状況だが、それぞれで検討して頂き、ありがとうございました。オンラインで実施する場合、Zoom(40分以上は2,000円)やウェビナー(100名程度、6,000円)などがある。厚生協会でのアカウントも、研究会で使用できるが、重複する可能性もある。今後は、教文会議事務局でも契約する予定である。(内堀 T)

中村 T より:10 月 17 日(土)研究集会について・・・内山さん親子のお話が聴けます。参加申し込みは中村 T へ！

(5)教文会議 提言について

有賀 T:コロナ禍にある学校教育において、少人数学級をどうするのか大事なので少人数学級についての意見もまとめた方がよい。学びの指標については研究をすすめていきたい。「能力」の評価が曖昧であるが、教文としての立場を明確にしていく必要がある。

終わりの言葉(寺尾 T より)

交流したいことは多々ありますが、ここでの話し合いをそれぞれの所で生かし、オンライン等も工夫して活用して頂きたい。また、情報公開して多くの人に参加できる状況をつくっていくことも大切であり、望ましい教育の実現していくための研究活動を大事にしていきたい。